

アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取県立境高等学校

教諭 内門 久美

- 1 主催 鳥取県高等学校書道教育研究会
- 2 対象 鳥取県高等学校書道教員（教諭・常勤講師・非常勤講師）
- 3 期日 平成28年8月2日（火）
13:00～16:30
- 4 会場 米子コンベンションセンター 第7会議室
- 5 演題 「書道の新しい評価のあり方を拓く～パフォーマンス課題を中心に～」
講師 安田女子大学 谷口 邦彦 教授

6 講義内容

以下の内容について講義、指導助言をいただいた。

(1) 書道におけるアクティブラーニングのあり方・考え方

- ・教師である自分自身が楽しくないといけないと思っている。
- ・「言われたから」や「求められているから」ではなくて、振り返ると「好きなこと」「興味があること」を今までやってきた。
- ・アクティブラーニングとはどのようなものかについて、平成26年11月の中教審への諮問資料から抜粋し、作成されたものを用いて説明していただいた。以下、その内容を記す。

『アクティブラーニングとは、「課題の発見・解決へ向けて主体的・協働的に学ぶ学習」であり、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」である。「学習者が能動的に学習することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用能力の育成を図る」ものである。』

- ・これからは、基礎力を積み上げていくのではなく、世の中の変化にどのように対応するか、どう行動するかということが求められているという風に言われている。

(2) 新しい評価の流れ（「パフォーマンス評価」「ルーブリック」による評価）・広島県での実践紹介

- ・書道の授業と書塾での指導方法の違い。お手本を渡してそっくりを書く。それを評価するという授業は、いまでは通用しない。
- ・パフォーマンス評価ですべてが評価できるとはいえない。しかし、多様な活動に取り組みせることができるものである。また、一人ひとりの評価を行えるものである。
- ・講師の谷口先生用意の冊子を基にし、広島県での実践の確認。
- ・カリキュラム・マネジメントが必要である。カリキュラム・マネジメントとは、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すための仕組みのことであり、何ができるようになるかを具現化し、何を学ぶか、どのように学ぶか、検討する必要がある。

(3) パフォーマンス課題の作成

- ・3～4人のグループに分かれ、それぞれでテーマを決め、パフォーマンス課題の作成。
- ・グループごとに発表（「どこでもシート」を利用したプレゼン形式）

7 所感

今回の研修は、書道におけるアクティブラーニングについてや、新しい評価について各自が課題をみつけ、今後の授業改革を図ることを目的に実施した。

新しい評価について講義いただくとともに、実際に広島県での実践例等を紹介いただき、それをもとに研究協議を行った。

また、多くの教員が参加し、教員間で、これまでの授業や授業評価等を見直し、実践していくべき内容を共通理解することができた。演習では、グループに分かれ、「パフォーマンス課題」を実際に作成した。指導における留意点等基礎的な内容についてもわかりやすい解説をいただき、今後それぞれの学習指導に大いに役立つ内容となった。

短時間ではあったが、非常にわかりやすく、大変充実した内容の研修であった。今回学んだことを早速実践に反映させ、さらに実践を重ね、成果を明確にできるよう会員で確認できた。

以下、参加された方々の感想を列記しておく。

- ・早速授業に取り入れたい内容であり、大変参考になった。アクティブラーニングはよく聞いてはいたものの、あまりよく分かっていなかったので、よい勉強になりました。
- ・評価方法（生徒が行う自己評価を含む）について、何か良いものはないかと思っていたところであったので、本当にタイムリーな研修でした。生徒が自分の活動を振り返る際に言語化することに困難さがあるのを解消する手立てとして取り入れたいと思います。
- ・勤務校でもアクティブラーニングに学校をあげて取り組んでいます。書道としてどのような展開が可能なのか、どのような力を身につけさせることができるのか（生徒自身、どのような力を身に付けることができるのか）、今後、研究を深め、実践を行う大きな手がかりを頂き、「やってみよう！」という気構えを持つことができました。

